

## 【医学部】

### ○ディプロマ・ポリシー

#### <医学科>

医学科卒業時に獲得すべき実践的能力を、次のようなコンピテンスとして定めている。このコンピテンスを全て修得するものに対して、学士（医学）の学位を授与する。

#### ① プロフェッショナリズム（智・仁・勇）

医療専門職としての自己の役割を理解し、高いモラルを持って患者中心の医療を実践できる。

#### ② 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）

必要な知識を身につけ、幅広い症候、病態、疾患に対応できる。

#### ③ 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）

患者の苦痛や不安感に配慮し、診療、臨床手技を実践することができる。

#### ④ コミュニケーション能力（智・仁・勇）

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築くことができる。

#### ⑤ チーム医療の実践（仁）

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携できる。

#### ⑥ 医療の質と安全の管理（仁）

患者にとって良質かつ安全な医療を理解し、医療従事者の安全性にも配慮できる。

#### ⑦ 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇）

医療人として求められる社会的役割を理解し、地域医療、大阪の医療に貢献する力を獲得する。

#### ⑧ 科学的探求（智）

医学及び医療における科学的アプローチを理解できる。

#### ⑨ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁）

生涯にわたって自律的に学び、共に研鑽し、相互に教育することができる。

#### <リハビリテーション学科>

リハビリテーション学科の人材養成方針に則り、教育目的に定める人材を育成するため、両専攻が定める卒業要件単位を修得し、次の知識と能力を培った学生に「学士（保健学）」の学位を授与する。

#### 理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー

1. 生命の尊さと人の尊厳を重んじ、人の痛みや苦しみを分かち合える豊かな人間性
2. 理学療法学分野における科学的専門知識・技術に基づき、疾病予防から身体機能の回復、維持・向上を図り、社会復帰や社会参加を目指す人びとを支援する能力
3. 保健、医療、福祉機関や地域において、他の医療専門職者と連携し、調整的な機能が果たせる能力

4. 地域社会並びに国際社会への貢献に必要な情報リテラシー能力とコミュニケーション能力

5. 理学療法学専攻の社会的役割を認識し、果たすために必要な学術的探究の基礎能力

#### **作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー**

1. 生命の尊さと人の尊厳を重んじ、人の痛みや苦しみを分かち合える豊かな人間性

2. 作業療法学分野における科学的専門知識・技術に基づき、疾病予防から身体機能の回復、維持・向上を図り、社会復帰や社会参加を目指す人びとを支援する能力

3. 保健、医療、福祉機関や地域において、他の医療専門職者と連携し、調整的な機能が果たせる能力

4. 地域社会並びに国際社会への貢献に必要な情報リテラシー能力とコミュニケーション能力

5. 作業療法学専攻の社会的役割を認識し、果たすために必要な学術的探究の基礎能力

## ○カリキュラム・ポリシー

### <医学科>

大阪市立大学医学部医学科の方針を引継ぎつつ、文部科学省が定める「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に沿い、医学部医学科のディプロマ・ポリシーで定めたコンピテンス、及びその基礎となる【智・仁・勇】を段階的に獲得するために、基幹教育科目、及び専門科目を以ってカリキュラムを編成する。

基幹教育科目は将来、医療人として必要とされる素養を身につけるとともに、専門科目に対応できる下地を学ぶものと位置付けており、1～2年次に学修する。

一方、専門科目は、医学の専門性の高い科目（基礎医学科目・社会医学科目・臨床医学科目）からなり、段階的・連続的に学生の学習を促進するよう編成している。基礎的な内容から学修し、最終的に医師として必要なスキルを段階的に身に付けられるように、専門科目は1年次から6年次にかけて定められた授業科目を順次履修する。

具体的なカリキュラム・ポリシーは次のとおりである。

1. 1年生を対象に実施される基幹教育科目を通じて、将来、社会人として役立つ素養を身につける（①プロフェッショナルリズム【智・仁・勇】）とともに、専門教育に対応できる下地を学ぶ。
2. 1～3年生を対象に実施される基礎医学科目を通じて、人体の構造と機能のしくみを分子レベルから個体レベルまで総合的に学び、次いで病気の原因、本態やその機序を系統的に学習する（②医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。また、細菌、ウイルス、医動物等の病原性、その感染機序、並びに生体の免疫機構を学び、さらに薬物療法の基礎を学ぶ（②医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。
3. 1～4年生を対象に実施される社会医学科目を通じて、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システムとその役割（⑨生涯にわたって共に学ぶ姿勢【智・仁】）、及び法的問題と関わる心身の変化、反応、病的現象や障害等を学習する（②医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。さらに将来、医師として必要な幅広い知識と教養を身につける（①プロフェッショナルリズム【智・仁・勇】）。また、修業実習を通じて、特定のテーマについて学生に自ら研究させる（⑧科学的探究心【智】）。
4. 1～6年生を対象に実施される臨床医学科目において、臨床系の臓器別講義を通じて基本的な知識や技術を学ぶとともに（②医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）、臨床実習に必要とされる技能を学習する（③診療技能と患者ケア【智・仁・勇】、⑥医療の質と安全の管理【仁】）。また、外来臨床実習（外来型 CC）を通じて修得した知識・技術を臨床の現場で実践する（④コミュニケーション能力【智・仁・勇】）とともに、卒後に医師としてのスタートを切れるように、参加型臨床実習（ユニット型 CC）を通じて診療チームに参加し、実践的な医学知識・臨床推論法、技能、態度を身に付けさせる（③診療技能と

患者ケア【智・仁・勇】、⑤チーム医療の実践【仁】、⑥医療の質と安全の管理【仁】。さらに、幅広い臨床技能を修得し、医療現場での経験を充実させるために、医学部附属病院、並びに教育関連病院での選択型 CC を実施する（⑤チーム医療の実践【仁】、⑥医療の質と安全の管理【仁】、⑦社会における医療の実践と大阪府住民の幸福に貢献する力【智・仁・勇】）。選択型 CC における教育関連病院及び診療科の選択と調整に関しては、学生の自主性を尊重させる（①プロフェッショナリズム【智・仁・勇】）。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

### <リハビリテーション学科>

基幹教育科目と専攻専門科目とのスムーズな接続に配慮しつつ、学部共通専門科目、学科共通専門科目とともに学科の理念を具体化するコア科目群を設置する。すなわち「医学序論」、「生命倫理学」、「地域リハビリテーション論」、「在宅リハビリテーション論」等の科目を設置し、理学療法学専攻、作業療法学専攻の学生がリハビリテーションを必要とするすべての「人」を支援するために必要な倫理や基本的な知見について共に学び、協働的な実践を行うための共通の基盤を形成する。

以上を踏まえ、次のような内容に配慮して教育課程を編成する。

1. 各専攻の授業を相互に受講できる学際的カリキュラム
2. 入学当初から、臨床的な体験を含む演習・実習科目の実施
3. 実践的なチーム医療の基礎となる教育の実施
4. リハビリテーションの理念を基礎にした、医療専門職者に必要な幅広い基幹教育科目、学科共通専門科目の開講
5. 学外実習施設との密接な連携による、教育と実践の効果的な学習体制の充実
6. 両専攻の独自の特性を活かした教育展開

さらに、上記を踏まえて専攻ごとのカリキュラム・ポリシーを以下に定める。

#### (1) 理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 1～2年次に開講する医学序論・生命倫理学・臨床心理学・人間発達学等の科目を通して、生命の尊さと人の尊厳について、人間の身体・社会的発達観点から深く学ぶ。
2. 2～3年次に開講する運動器理学療法学・神経理学療法学・発達理学療法学・内部障害理学療法学等の科目を通して理学療法学分野の科学的専門知識・技術を学習

するとともに、臨床実習関連科目で陶冶される実践力に基づき、疾病予防から身体・精神機能障害の回復、維持・向上を図り、社会復帰や社会参加をめざす人びとを支援する能力を身に付ける。

3. 2～3年次に開講する公衆衛生学において保健分野、リハビリテーション医学において医療分野において福祉分野、地域リハビリテーション論・地域理学療法学・在宅リハビリテーション論において地域分野の各分野で活躍する専門職者と連携し、調整的な機能が果たせる能力を身に付ける。また、臨床実習科目において各職種の連携について実践力を養う。
4. 1～2年次に開講する情報リテラシー等の情報処理関連科目において情報リテラシー能力と英語科目等の語学関連科目においてコミュニケーションスキルを身に付け、地域社会並びに国際社会に貢献しうる能力を身に付ける。
5. 理学療法学総論において、理学療法の成り立ち、医療・福祉分野での理学療法士の役割を学習し、3～4年次に開講する理学療法学研究法において自己学習能力と探究的態度等理学療法実践に関する学術的探求の基礎能力を身に付ける。

## (2) 作業療法学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 1～2年次に開講する医学序論・生命倫理学・臨床心理学・人間発達学等の科目を通して、生命の尊さと人の尊厳について、人間の身体・社会的発達の見点から深く学ぶ。
2. 2～3年次に開講する身体障害作業療法学・精神障害作業療法学・発達障害作業療法学・老年期障害作業療法学等の科目を通して作業療学分野の科学的専門知識・技術を学習するとともに臨床実習関連科目で陶冶される実践力に基づき、疾病予防から身体・精神機能障害の回復、維持・向上を図り、社会復帰や社会参加をめざす人びとを支援する能力を身に付ける。
3. 2～3年次に開講する公衆衛生学において保健分野、リハビリテーション医学において医療分野、地域リハビリテーション論・在宅リハビリテーション論において地域分野の各分野で活躍する専門職者と連携し、職種間調整能力を身に付ける。また、臨床実習科目において各職種の連携について実践力を養う。
4. 1～2年次に開講する情報リテラシー等の情報処理関連科目において情報リテラシー能力と英語科目等の語学関連科目においてコミュニケーションスキルを身に付け、地域社会並びに国際社会に貢献しうる能力を身に付ける。
5. 作業療法学総論において、作業療法の成り立ち、医療・福祉分野での作業療法士の役割を学習し、3～4年次に開講する作業療法研究法 1～4 において自己学習能力と探究的態度等作業療法実践に関する学術的探求の基礎能力を身に付ける。

### 学修成果の評価基準

各科目の学修成果は、授業内での小テスト、定期試験、レポート、セミナー発表、ディスカッションへの参加状況等の平常点、実技実習科目における実習状況及び実技テスト等で評価することとし、その方法については授業内容の詳細とともにシラバスにおいて科目ごとに明示する。

## ○アドミッション・ポリシー

### <医学科>

医学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの基礎となっている、「智・仁・勇」の三つの基本理念を理解する素地を有する下記の学生を求めている。

- ・智は医学を推進する旺盛な向学心と知識を意味し、これらを有している人
- ・仁は人への博愛の心を意味し、人を包みこむ広い心を有している人
- ・勇は医療を実践する決断の勇気を意味し、積極的な行動を起こせる人

これらの基本理念を有し、自ら学習課題を設定し、その課題に向かって勉学に励める人の入学を希望する。

### <リハビリテーション学科>

人が地域社会において健康で文化的な生活を営むためには、身体的、精神的、社会的に良好な状態で生活できることが大切である。ライフステージで生じる子育て、教育、医療、介護等の問題は複雑で多様化している。その中において保健・医療・福祉の領域では、複雑化したシステムと専門分化した知識・技術を根幹にあるべきヒューマニズムと調和、発展させることが求められている。リハビリテーション学科では、理学療法士、作業療法士として、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、地域社会及び国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を養成する。

したがって、リハビリテーション学科では、次のような有能で活力ある学生を求めている。

1. 人との関わりを大切にし、相手に対する思いやりや愛情を適切に表現できるとともに、相手の主張や気持ちを受けとめる包容力をもった人
2. 学問に対する興味と探究心を持ち、知識と技術の習得に積極的に取り組む人
3. 将来、リハビリテーションを総合的にとらえることのできる理学療法士、作業療法士として、人々の保健・医療・福祉に貢献しようとする熱意をもった人
4. 国際的視野をもって広く社会に貢献することをめざす人

### <<理学療法学専攻>>

理学療法学は、病気、けが、高齢等によって運動機能が低下した状態にある人々に対し、身体機能を科学的に評価して治療する理論と技術の体系である。理学療法では、相手の立場を思いやる豊かな感性と、高度な問題解決能力が求められる。理学療法学専攻では、身体の構造や機能及び疾病に関する幅広い学問を修得し、リハビリテーション医療や地域医療の最前線に立ち得る高度な専門的能力、総合判断力、研究能力を有した理学療法士を養成する。

したがって、理学療法学専攻では次のような学生を求めている。

1. 人との関わりを大切にし、相手に対する思いやりや愛情を適切に表現できるとともに、相手の主張や気持ちを受けとめる包容力をもった人
2. 身体機能や運動を科学することに強い関心をもち、知識と技術の習得に積極的に取り組む人
3. 将来、理学療法士として、リーダーシップを発揮し、保健、医療、福祉、研究、教育の分野に積極的に貢献しようとする熱意をもった人
4. 国際的視野をもって広く社会に貢献することをめざす人

また、理学療法学専攻では、文理ともに広く学習し、英文を読解し、英文で表現するための知識・技能、他者理解とコミュニケーションの基礎となる思考力・判断力・表現力、さらに、理学療法学を学ぶ上で必要となる主体性・多様性・協働性を有している学生を選抜する。

#### 《作業療法学専攻》

作業療法学は、乳幼児から高齢者までの身体や精神に障がいのある方々、またはそれが予測される方々の主体的な日常生活能力・社会適応能力の獲得を目的とした治療、指導の理論と技術の体系である。作業療法では、対象者（児）の機能だけでなく、個人の考えや生活環境、社会環境を把握する能力も求められる。作業療法学専攻では、人々の活動と心身機能、環境との関係、脳の働き、発達や老化等の知識に基づく実践技術と研究能力、さらに対象者（児）に寄り添う「こころ」を有し、地域社会の保健、医療、福祉及び教育分野においてリーダーシップを発揮できる作業療法士を養成する。

したがって、作業療法学専攻では次のような学生を求めている。

1. 人との関わりを大切にし、相手に対する思いやりや愛情を適切に表現できるとともに、相手の主張や気持ちを受けとめる包容力をもった人
2. 人々の作業と健康に高い関心をもち、作業療法の知識と技術の習得に積極的に取り組む人
3. 将来、作業療法士として地域社会の保健、医療、福祉、研究、教育に貢献しようとする熱意をもった人
4. 国際的視野をもって広く社会に貢献することをめざす人

また、作業療法学専攻では、文理ともに広く学習し、英文を読解し、英文で表現するための知識・技能を有し、他者理解とコミュニケーションの基礎となる思考力・判断力・表現力、さらに、作業療法学を学ぶ上で必要となる主体性・多様性・協働性を有している学生を選抜する。